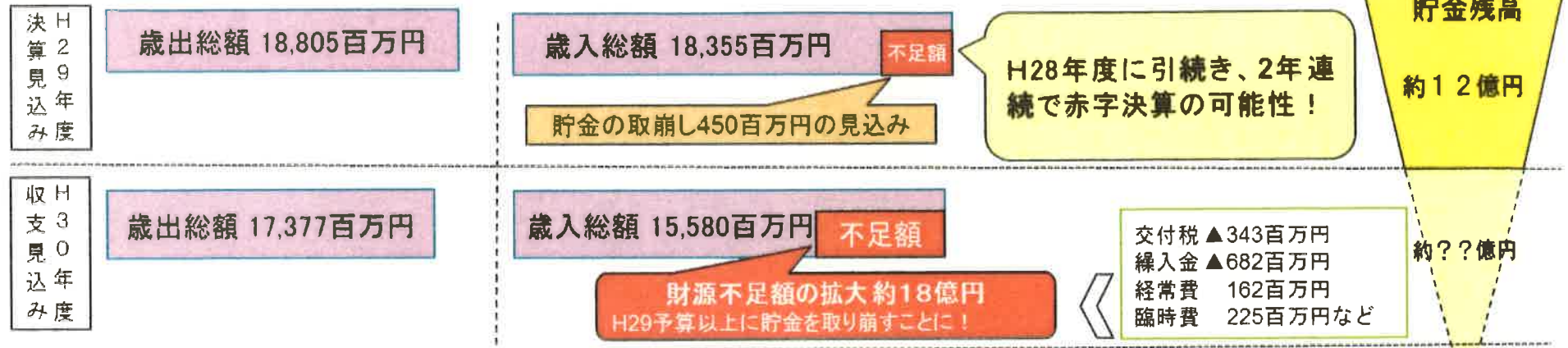


平成30年度 予算要求のフレーム



長期的な視点に立った「財政健全化」と
計画的な「施策展開」の両立を目指す！

既存事務事業の削減 ⇒ 相当額を少子化対策関連へ配分
【人口問題・少子化対策推進に関する施策展開方針】

公共施設の維持改修等に必要となる財源を確保！

要求基準

【経常費】	+	【臨時費】
H29年度当初予算額から、少子化対策経費等・人件費・公債費・扶助費などを除き▲5%した額を「完全割当方式」により配分 (H30収支見込み対比 約▲200百万円)		H30年度財政収支試算をベースとして▲5%した額を「枠配分方式」により配分 (H30収支見込み対比 約▲60百万円)

『スクラップ&ビルト』 新規・拡充事業(ビルト)の財源は、既存事業や制度見直し(スクラップ)により創出
『選択と集中』の実践 事務事業レベルで優先度の設定し、優先度に応じた財源の最適配分を図る

H29同様の要求基準で、更なる収支不足額の圧縮を図っても、政策会議等に係る「別枠」を除き 約15億円の収支不足が見込まれるため、要求基準を満たした要求についても、内容精査のうえ、緊急度・優先度等を踏まえた査定を行います。